

外国語学部アジア学科主催, アジア・太平洋研究センター共催ワークショップ

日 時：2016年6月18日（土）

場 所：名古屋キャンパス M棟1教室

テーマ：インドネシアにおける伝統芸術の教授法：ガムラン

報告者：ダナン・ブグ（ディポネゴロ大学，名古屋大学大学院教育発達科学研究科
客員教員）

通 訳：風間 純子（南山大学非常勤講師）



ダナン・ブグ氏



風間 純子氏

第1部講演会「ジャワの文化政策 — 独立期インドネシアにおけるスラカルタ —」

ジャワの伝統音楽楽器ガムランの起源はヒンドゥー・ジャワ期に遡るが、その音楽はジャワがイスラーム化した後も発展を続けた。18世紀半ばのジャワ島ではマタラム王国がジョグジャカルタとスラカルタに二分され、それぞれの王家は文化的中心として固有の文化スタイルを形成していった。オランダの植民地支配と日本占領を経て、1945年に、ジャワとそれ以外の島々は「インドネシア」として独立を果たした。

独立期のインドネシアにおいてジャワ文化を表象することとなったのがスラカルタ様式の上演芸能であるが、それは以下の4点で裏づけられる。

- 1) 国立のアカデミー等の教育機関，芸術センター，伝統演劇の劇場がスラカルタに設立され，スラカルタ様式の芸能の保存と後継者の育成がなされた。また，レコード会社が設立され，スラカルタ様式の音楽や音楽劇が録音・販売された。
- 2) 独立後に設立された国営ラジオ・スラカルタ支局においてスラカルタ様式の音楽や芝居が放送されることにより，電波を通して国内外の多くの地域へスラカルタ様式の芸能が拡散されていった。

- 3) ジャワ語（中部・東部ジャワで話される地方語、インドネシア語とは異なる）による雑誌や新聞、書籍の出版活動が盛んになされたが、そこで取り上げられた芝居や音楽の多くがスラカルタ様式によるものであった。
- 4) スラカルタにおける二つの王家では、それぞれが伝承してきた宮廷芸能の保護育成および再創造活動が行われたが、その他に両家は海外公演などを通してインドネシアにおける文化使節としての役割も果たしてきた。

以上のことを踏まえ講演者は、独立期に政府がスラカルタに設立した文化機関を通しておこなった伝統文化保護育成の政策、民間の出版活動、そして王家の文化活動がジャワ上演芸能を開花させることに大いに貢献したと結論づけたほか、ジャワ文化の発展を牽引したのは、まさにスラカルタ様式の芸能であるとした。

第2部ワークショップ「ガムランに親しむ」

講演者のダナン博士の指導と風間氏の補助で、ガムラン音楽の演奏体験講座が行われた。本学学生および卒業生を中心とし、幼児から社会人まで幅広い年齢層、また遠方からも駆けつけた参加者のうち約50名が楽器に触れ、スラカルタ様式の伝統音楽を体験した。

（文責：風間 純子，小林 寧子）